現代社会資本論

森　裕之＝諸富　徹＝川勝健志 編

2020 年 9 月発売／334 頁／本体 2900 円＋税
A5 判／並製

詳細を見る

中級　学習　研究　学部　一般

編集担当者から

いま，高度成長期のときに造られた高速道路や上下水道などが同時期に更新時期を迎えつつあります。災害への備えもますます重要となっています。本書は，こうした一般的に「インフラ」といわれることが多い社会資本，また住宅，グリーンインフラ，博物館など比較的新しい概念としての社会資本を総合的にとらえる，維持可能な社会のための社会資本論です。

老朽化したインフラの更新，過疎化によって困難となっている公共交通などの維持や，新たな社会資本の必要など，財政的な需要は増える一方であるにもかかわらず，ご存じのように日本財政は余裕がありません。そのため，民営化や公民連携によってインフラ整備や運営を行う例も多くなってきました。これらについても多面的に分析を行っています。

日本の社会資本の歴史と課題，政策を一望できる書です。（E.H.）

Index

社会資本の歴史，現代的な課題など，日本の社会資本を網羅的に分析します。

序　　章　社会資本論の現代的課題（宮本憲一）
第 1 部　現代社会資本論の視点
第 1 章　社会資本の歴史的変遷と現在（森　裕之・鶴田廣巳）
第 2 章　社会資本と都市・農村（山田　明・平岡和久）
第 3 章　社会資本と官民役割分担（杉浦　勉）
第 2 部　転換期の社会資本
第 4 章　居住福祉と社会資本（吉弘憲介）
第 5 章　都市におけるグリーンインフラ（中島正博）
第 6 章　地域エネルギーと社会資本（諸富　徹）
第 7 章　交通社会資本とまちづくり（川勝健志）
第 8 章　災害と社会資本（宮入興一）
第 9 章　文化・観光と社会資本（後藤和子）
第 3 部　社会資本のガバナンス
第 10 章　社会資本と公共サービス・参加型予算（槌田　洋）
第 11 章　地域金融と社会資本（三宅裕樹）
第 12 章　現代社会資本と税財政改革（鶴田廣巳）
終　　章　グローバル・ローカル時代の社会資本論へ向けて（森　裕之）

※小社ウェブサイトの本書のページもご覧ください。